

熊本市立幼稚園基本計画【概要版】

幼児期はその時期にふさわしい生活や遊びを通して、心情、意欲、態度、基本的な生活習慣、知的な発達、創造性や社会性など、子どもたちが健やかに育ち、生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期である。

しかしながら、近年、少子化、核家族化、都市化、情報化など社会の急激な変化や人間関係の希薄化、地域におけるつながりやかかわりの希薄化などにより、子どもや子育てを取り巻く環境は著しく変化している。

このような状況の中、平成27年4月に、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていくことを目的として、子ども・子育て支援新制度が施行された。

子どもや保護者のニーズに適切に対応するため、幼児期の豊かな育ちを保障し、より質の高い幼児教育を提供すること、また、子どもたちにとって望ましい教育環境の整備や保護者へのきめ細かな支援を行っていくことが重要である。

教育委員会としては、幼児教育が果たすべき役割の重要性や市立幼稚園を取り巻く厳しい環境を踏まえ、本市の未来を担う子どもたちの幼児教育全体のさらなる質の向上も視野に入れながら、「熊本市立幼稚園基本計画」を策定する。

I 市立幼稚園を取り巻く現状と課題

1 園児数の減少

市立幼稚園の園児数は、昭和52年度の1,462人をピークに、年々減少を続け、平成27年度は、平成21年度末に加わった旧城南町の隈庄幼稚園を含めても561人となり、ピーク時の約38%になっている。

2 幼稚園の人的体制

市立幼稚園の教諭は、平成11年度以降新規採用を行わず、幼稚園の免許を有する小学校教員の配置替えや臨時職員の配置で対応してきたため、平成11年度は、7割程度であった学級担任における正規職員の割合が、平成27年度は4割程度となっている。なお、平成28年度に3人の新規採用を行うこととしている。

3 施設の老朽化

市立幼稚園の施設（園舎）は、昭和40年代～50年代に建築され、ほとんどが建築後40年近く経過し、雨漏りやサッシ窓等の不具合が生じるなどの老朽化が進行している。

Ⅱ 基本目標と基本方針

1 基本目標

目標：本市の幼稚園教育の充実

市立幼稚園は、私立幼稚園等と連携を図りながら、幼児期の豊かな育ちを保障し、質の高い幼稚園教育を提供することはもちろん、子どもにとって望ましい教育環境の整備や今日的課題に対応し、保護者や子どもへの適切な支援を実施することにより、本市の幼稚園教育の充実を図る。

2 基本方針

方針1：「コア幼稚園」としての機能強化

市立幼稚園は、公立ならではの特性（①豊富な知識・経験を有する幼稚園教諭が多い、②同じ公立である小学校や地域との連携が図りやすい、③関係行政機関との豊富なネットワークがある）を最大限生かし、幼稚園教育をリードする「コア幼稚園」としての機能を強化する。

（1）特別支援教育の推進

市立幼稚園において、特別な教育的支援を要する子ども一人ひとりに対して、きめ細かな指導と適切な支援を行うとともに、特別支援教育における指導・支援の先進園となる取り組みを実施するなど、本市特別支援教育の推進を図る。

（2）幼稚園教諭等の資質向上

市立幼稚園教諭等は、私立幼稚園等を含めた幼稚園教育のリーダーとして、幼稚園教育の現状や教育課題を研究・研修し、それらの成果を実践していきながら、幼稚園教育の充実及び幼稚園教諭等の資質向上を図る。

（3）幼・小接続の取り組みの推進

市立幼稚園は、市立小学校と設置者（熊本市）が同じという強みを生かしながら、幼児期の教育と児童期（小学校）の教育との円滑な接続のあり方を研究し、そこから得られた成果を、私立幼稚園や保育所等に広げていく先導的な役割を担うことにより、幼・小接続の取り組みの推進を図る。

方針2：市立幼稚園の教育環境の整備

市立幼稚園の子どもが教育上望ましい集団生活を送ることができる環境を整備するため、定員充足率の低い園の閉園を実施する。また、存続する園が、適切に「コア幼稚園」としての機能強化を図ることができるよう、必要に応じて、幼稚園教諭の採用や園舎等の施設整備を行う。

3 計画期間

平成28年度から平成30年度までの3年間とする。

Ⅲ 主な重点的取り組み

1 「コア幼稚園」としての機能強化

(1) 特別支援教育の推進

①【拡充】ことばの教室の充実(対象者:構音や吃音等ことばに課題のある熊本市在住の年長児)

取 組 内 容
ことばの課題への改善に加えて、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援や指導を行うことができるよう、在籍する園や他の療育機関・相談機関との連携を進める。また、専門性の高い講師を招くなど園内研修を充実させるとともに、「ことばの教室」を実施している碩台幼稚園と熊本五福幼稚園で指導の成果や課題について情報共有を行うなど、2園の連携を深め、職員の指導力向上を図る。

②【新規】あゆみの教室(仮称)の開設(対象者:知的障がい・発達障がいのある熊本市在住の年長児中心)

取 組 内 容
知的障がいや発達障がい等の特別な教育的支援の必要な子どもが就学後、円滑に小学校生活を送ることができるような指導を行うために、通級教室「あゆみの教室」を一新幼稚園及び川尻幼稚園の2園に開設する。
<一新・川尻幼稚園に開設する理由>
<u>交通の利便性</u> 通級教室である特性を踏まえ、通いやすい中心部にある一新幼稚園と、それとの地域バランスから川尻幼稚園とする。
<u>施設環境</u> 空き保育室が一新幼稚園には1部屋、川尻幼稚園には2部屋あり、園舎も大規模改修を実施しているため、園舎を長く使用することが可能である。
<u>周辺環境</u> 一新・川尻幼稚園とも、幼稚園が設置されている行政区内にある小学校の特別支援学級に在籍する子どもが多く、川尻幼稚園の近隣には療育等を実施する児童発達支援事業所が少ない。

(2) 幼稚園教諭等の資質向上 <【新規】私立幼稚園等との合同研修会の実施>

取 組 内 容
教育委員会が中心となり、教育課程や指導計画、特別支援教育等に関する共通の課題をテーマとした市立・私立幼稚園等の合同の情報交換会や研修会を開催する。

(3) 幼・小接続の取り組みの推進 <【新規】幼・小接続のモデル園の指定>

取 組 内 容
<p>幼・小接続を見通した教育課程の実施・検証を行い、公開保育や公開授業を実施するモデル園を指定する。また、教育委員会が中心となり、幼稚園の「アプローチカリキュラム」や小学校の「スタートカリキュラム」、幼・小接続の円滑な推進のための手引書等を作成・配布するなど、その成果について、市立小学校や市立・私立の幼稚園、保育所等へ拡充を図る。</p>
<向山幼稚園を指定する理由>
<p>周 辺 環 境</p> <p>向山幼稚園は、向山小学校と隣接しており、近隣に江南中学校もあるため、幼小だけでなく、幼小中間で日頃から活発な連携が実施されているため、円滑な接続が可能である。また、平成26年度から幼・小接続のカリキュラム案の実践研究を進めている。</p> <p>幼稚園環境</p> <p>向山幼稚園は、一定規模の園児が在籍しており、また、園児の7割以上が向山小学校へ進学するため、カリキュラムの実施・検証に適している。</p>

2 市立幼稚園の教育環境の整備

①【新規】市立幼稚園の閉園と民間移譲

取 組 内 容
<p>定員充足率の適正化、近隣の市立・私立幼稚園等の受入状況、「コア幼稚園」的機能強化のための人員確保等から閉園する園を総合的に検討し、平成29年度末に古町幼稚園及び熊本五福幼稚園の2園を閉園し、幼稚園、認定こども園又は保育所として民間移譲する。</p>
<古町・熊本五福幼稚園を閉園する理由>
<p>【基準1】 定員充足率の適正化</p> <p>古町・熊本五福幼稚園とも、全体の定員充足率が40%未満の状況が5年以上継続し、3歳児の定員充足率についても100%に達していない年が多い。</p> <p>【基準2】 近隣の市立・私立幼稚園の受入状況</p> <p>古町・熊本五福幼稚園とも、閉園を実施した場合、近隣の市立・私立幼稚園等において、当該園児を受入れることが可能である。</p> <p>【基準3】 「コア幼稚園」的機能強化の人員確保</p> <p>古町・熊本五福幼稚園の2園の閉園により、「あゆみの教室」の「コア幼稚園」的機能強化に必要な人員の確保が可能である。</p>

②【拡充】職員体制の充実

取 組 内 容
<p>市立幼稚園の閉園に伴う幼稚園教諭の再配置計画を踏まえた上で、「ことばの教室」・「あゆみの教室」を含めた適正な職員配置を検討し、必要に応じて、幼稚園教諭の計画的な採用を行うことで、職員体制の充実を図る。</p>

体系図

